

Spring & Autumn 2023

名大理学同窓会報

ES 総合館 (Engineering and Science Building)

旧工学部 4 号館の跡地に、工学部と理学部の合築として 2011 年に建設されました。6 階と 7 階に素粒子宇宙起源研究所 (KMI) と物理の研究室があります。2 階のガラス張りスペースには 2008 ノーベル賞展示室があり、小林先生、益川先生、下村先生、そして、所属研究室を主宰された坂田先生、平田先生の業績が紹介されています。(2023 年 11 月 24 日撮影)

NO.36

CONTENTS

1. 大学の国際化とその課題	森吉 仁志 (多元数理科学研究科長)	1
2. 卒業生・在校生からのメッセージ		2
青山は彼方	藤永 大輝 (カリフォルニア大学リバーサイド校 ポスドク研究員、 生命理学科 2014 年卒、博士前期課程 2016 年修了)	
考える力について考える	齋藤 正樹 (株式会社 金融エンジニアリング・グループ、物質理学専攻物理系 博士前期課程 2022 年修了)	
数学への思い	加藤 康一 (多元数理科学専攻 博士後期課程 1 年)	
科学コミュニケーションの道へ	竹腰 麻由 (化学科 2016 年卒業、博士前期課程 2018 年修了)	
もし私が、もし私が、	廣瀬 允人 (木曾広域連合 埋蔵文化財調査室、総合研究大学院大学 客員研究員、 環境学研究科 博士後期課程 2022 年修了)	
アメリカでの研究生生活	冬頭 かおり (素粒子宇宙物理学専攻 博士前期課程 2013 年、後期 2016 年修了)	
1970 年入学の物理教室博士前期課程	宮本 茂昭 (物理学専攻 修士 1972 年、博士 1975 年修了)	
3. クラス会		5
4. トピックス		8
5. 近藤孝男先生 追悼文		12
6. 退職者からのメッセージ		13
7. 新任紹介		16
8. 寄付をしていただいた方々		18
9. 事務局からの連絡とお願い		19
10. scope...		19
11. 楽しく、厳しく、ハードに勉強する学生諸君		20
12. 会計報告		21
13. 編集後記		21





森吉 仁志
多元数理科学研究科長

1. 大学の国際化とその課題

2022年4月より多元数理科学研究科長を務めております森吉仁志と申します。同時に数理科学同窓会長の大役も仰せつかっております。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、多元数理科学研究科や理学研究科さらには名古屋大学を取り巻く環境が急速に変化しております。文科省による「国際卓越研究大学制度」については御存知の方々も多いと思いますが、多元にとっても「国際化」ならびに「卓越した研究力」は重大な目標であり、これに向かって邁進しているところ です。

国際化の指標として利用される「世界大学ランキング」の一つである Times Higher Education World University Rankings 2024 において、名古屋大学は世界 201～250 位、国内 6 位と評価されています。その大学説明サイト "ABOUT NAGOYA UNIVERSITY" には「特筆すべきは、21 世紀における日本人ノーベル賞受賞者 13 人のうち 6 名は名古屋大学教員の経歴を有し、加えてフィールズ賞受賞者である森重文（先生）の経歴も大部分は名古屋大学に属する」とあります。理学研究科のみならず多元数理科学研究科への好意的記述は、我々としても喜ばしい限りです。

多元では、ここ数年で教員の国際化が進行しています。現在は 50 人の専任教員のうち、国外出身者 5 名、国外での学位取得者 5 名、この他にも海外大学での長期滞在経験者が多数おり、それら教員の割合は 20%を超えています。

一方で、さらなる国際化を進めるために大きな課題もありま

す。例えば「教育カリキュラムの充実」と「博士後期課程充足率の向上」はその一端です。前者の問題は、日本と外国で単位交換可能な講義（2 単位）が、日本では週 1 回 90 分講義として開講され、欧米では週 2 回 90 分講義あるいは週 3 回 60 分講義として行われる点（講義時間は日本の倍となる）に端的に表れています。また後者の問題も、多元のみならず名古屋大学において深刻です。多元数理の博士後期課程入学定員は 30 名ですが、充足率はこれまで 50%～70%程度に留まっています。これを 100%に近づけることが喫緊の課題となっています。

欧米で数理科学の博士学位は人気が高く、とくにアメリカでは Ph.D.（数理科学）修了者数はここ数年増加傾向にあり、その総数は日本の 10 倍以上です（日本での 2021 年度博士後期課程修了者数は 131 名です）。その背景に、Ph.D. 課程進学者に対する手厚い経済支援制度（授業料の無料化、奨学金や TA 労働対価として生活費支給）のあることは疑いありません。遅ればせながら名古屋大学でも、2022 年度から授業料免除や博士後期課程学生の半数程度への生活費相当額支援（年間 240 万円以上）を実施しています。しかしながら支援数が半数に留まっており、多元独自の支援方策をも模索しつつ、学生全員への支援実現へ向けて努力中です。皆様のお力をお借りしたいと切に考えるこの頃です。

末筆になりますが、同窓会の皆様の御健勝を何よりも祈念しますとともに、これまでも増して名古屋大学と学生への暖かい御支援をお願いする次第です。

2. 卒業生・在校生からのメッセージ

青山は彼方

修士号を取得して早10年、かつては名大でカイコガを解剖する日々を過ごしていた私だが、いつの間にかアメリカでハエやカの遺伝子組換え体をつくったり、ハチのホルモンを抽出して質量分析



藤永 大輝
カリフォルニア大学リバーサイド校、ポスドク研究員
生命理学科 2014年卒、
博士前期課程 2016年修了

にかけたりしている。私は学生時代から一貫して『昆虫の発達と内分泌』を研究しているが、東大・アメリカと所属を変えるたびに新しい研究手法を取り入れ、研究の発展に努めてきたつ

もりだ。中には必要に迫られて習得した手技もあるが、「せつかくだし勉強しとか」程度の気持ちで身に付けた知識や技術が巡り巡って役に立っていることが多い。こうした習得意欲の根底には、名大理学部で研究者の方々から触発された研究への熱意があるように思う。特に生命理学科の熱心な先生方には細菌から動植物、構造生物学から生理学まで幅広い知識をご教授いただいた。

雇用が不安定なポスドク研究者だが、好きな場所で研究に邁進できるという強みもある。新しい場所で新しい研究者たちと出会い、切磋琢磨しているうちにできることが増えていくし、それに伴ってやりたいことも増えていく。それは非常に充実した研究生活であるが、その一方で果てのない荒野をゆくように感じることもある。この果てなき道を進んでいくためには、日々研鑽を積むほかにないようだ。

※青山<せいざん>：骨を埋める土地。
蘇軾「授獄卒梁成以遺子由」より

考える力について考える

大学ではよく「考える力」を養うと言いますが、「考える力」とは一体何でしょうか？

私は名古屋大学の博士前期課程で2年間物性物理学について研究をしたのち、民間企業に就職しました。学問から離れ友人と遊びでボルダリングをしに行ったとき、私はその考える力について気づきを得た気がします。ボルダリングは見た目に反して意外に難しく、当初は自分が登れなかったコースを自分より小柄な女性が簡単そうに登っていることが不思議で仕方ありませんでした。

何故あの人は簡単に登れているのだ



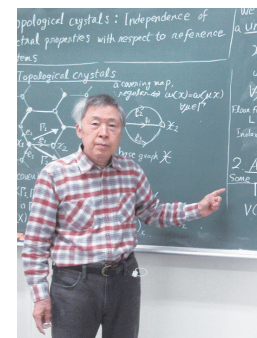
齋藤 正樹
株式会社 金融エンジニアリング・グループ
物質理学専攻 物理系
博士前期課程 2022年修了

ろうと考えていると、ふと研究と同じようになぜ失敗したのかを考え、仮説を立てて検証している自分に気づき、これが今まで養ってきた「考える力」なのかとハッとしました。そして、この順番で登るのはどうか？今まで使ってなかったこっちの石を使ってみるのはどうか？などと考え試しているうちに、自分の中の最適なルートが見えてきました。もちろん学生の時も何となく同じようなことは考えていたと思いますが、6年間学問に身を置いていたのに、遊びのボルダリングでハッとさせられたのは何とも不思議な感覚です。

普段の勉強・仕事に打ち込むことは素晴らしいと思いますが、たまには息抜きをして遊びに行ってみると、思わぬ気付きや問題解決の糸口を得ることができるかもしれませんね。つまり何が言いたいかというと、ボルダリングはいいぞ。

数学への思い

私は、Serge Richard 教授のご指導のもとで Topological Crystal と呼ばれるグラフ理論と関数解析学に取り組んでいます。私は高校の国語科教員を定年退職まで務めた後、数年間の科目等履修生を経て大学院に入りました。在職中、20代後半に、ある大学院で教育心理学を学び、また30代の終わりに、名城大学に編入学し、仕事と家庭を持ちながら、夜、数学を学びました。名城大学では故岡本武雄講師にご指導をいただきました。研究生を始めた時、先生は私の勉強がなかなか進まないのを見て、「君には期限を付けない。いくらでも時間をかけてよい。」と言われました。それから30年以上、先生はゼミを続けて基礎的な勉強を見守ってくださいました。また、



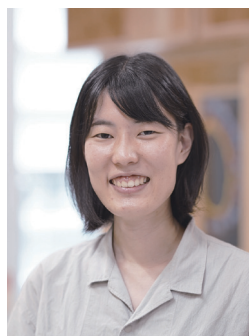
加藤 康一
多元数理科学専攻
博士後期課程 1年

30年ほど前から、高校や塾の数学教師で大学数学に興味を持つ人たちが、月1で大学数学の教科書を輪読する会に参加し、今も続けています。大学院では最初、微分幾何

学に取り組みました。一方、私は英語で数学を勉強したいと思い、国際プログラム G30 は日本人学生の受講も受け入れているので、G30 の数学の講義を受けました。そこで私は、Richard 先生の学生に対し思いやりがあり、明るく、積極的に関わり、励ます姿勢に感銘を受けました。私は先生にご指導をお願いし、昨年度、英語で修士論文を書くことができました。私はこれまで多くの人々に助けられて勉強を続けてこられたことに感謝しています。今、大学院で数学に取り組める幸せを噛みしめ、一層努力をしなければなりません。今後は、これまでの経験を生かし、言葉や数学の文化の発展と普及にいくらかでも役立ちたいと思います。

科学コミュニケーションの道へ

在学中は化学科の山口茂弘教授の研究室に所属し、3年間研究を行いました。卒業後、化学メーカー勤務を経て、日本科学未来館に就職し科学コミュニケーターとしての道を歩んでいます。研究生活が、この道に進んでみようと思った



竹腰 麻由
化学科 2016 年卒業、
博士前期課程 2018 年修了

たきっかけの一つになっていきます。研究室では文字通り日夜研究が行われており、私自身はここで行われている活動は面白い価値のあることだと感じていましたが、大学外

の人に話すとうまく伝わらないというモヤモヤを感じていました。その頃からぼんやり「研究」と「社会」をつなぐ人が必要だと考えるようになりました。

科学コミュニケーターとして活動するようになってからは、ただ科学の面白さを「伝える」ということだけではなく、参加者から意見を聞いたり、研究者と一般の方がフラットな立場で「対話」をすることも重要だと考えています。実際に、一般の方に研究に参加してもらいながら、科学や技術の未来について語り合うような場づくりに取り組んできました。今は、総合地球環境学研究所の広報という立場で、環境問題の視点から研究者と市民間のコミュニケーションに取り組んでいます。

在学中は、化学科や研究室、ITbMの皆様大変お世話になりました。朝から晩まで実験していた研究生活や院試勉強で辛いこともありましたが、最先端の研究に没頭できる環境を与えてくれたことに感謝しています。今度は科学コミュニケーターとして皆様と関わる機会があれば嬉しいです。

もし私が、もし私が、

私が自動車を運転しているとき、人を殺している気分になる。排出したCO₂で世界の破滅に加担しているとのこと。私が半額になった商品を手にレジに並ぶとき、値引きされた分、私がお店の利益を奪っている気分が悩まされる。私がネットショッピングでより安い商品を選んでカートに入れるとき、この商品を作っている人たちはちゃんとお給料をもらっているのかと心配になる。私がお肉を食べているとき、この個体の子供やきょうだいはどうしているだろうか心配になる。私がカビだらけのパンをやむなく捨てる時、この食糧で飢える人何人を何日間救えただろうかと考えてしまう。私がレストランで大盛りパスタを完食するとき、余裕のある社会が残さず食べる習慣の上に成り立つのかと疑問に思う。

もし私が、自分の給料手取り月約17万円は安いと吹聴しなければ、他の博士人材も安く買いたたかれることを黙認することになるだろうか。



廣瀬 允人 木曾広域連合 埋蔵文化財調査室、
総合研究大学院大学 客員研究員、環境学研究科
博士後期課程 2022 年修了

もし私が、山奥の商店でマグロの寿司を買ったら、山奥に運ばれるマグロの量が増えるだろうか、私の身体の安定同位体比はなるだろうか。もし私が、考古学の研究に貢献し続ければ、人間の本質を学ぶことの重要性を少しでも多くの方に理解してもらえようか。

日々様々なことを私は想像し、時に不安になる。けれども、想像力を以て物事をみることは重要で、それを教えてください。名古屋大学の先生方、あの道、近くのパスタ屋さん、仲間達に感謝している。

アメリカでの研究生活

2016年に渡米してから、7年が経過しました。こちらでは、6年間ポストドクターとして素粒子・原子核理論の研究に従事し、昨年秋からStaff Scientistとして研究を続けています。これまでのキャリアパスを経て、より多くの研究者との国際的なネットワークを広げることができ、日々新しい情報や知見を得てやりがいを感じる研究生活を送っています。

アメリカに来て印象強いことの1つに、多様な働き方、快適な職場環境作り、そしてワークライフバランスの促進に力を入れていることです。例えば、コロナ以前からテレワークを導入していたり、パートナーが研究者の場合に配偶者帯同雇用(dual career hiring)を交渉できる職



冬頭 かおり
素粒子宇宙物理学専攻
博士前期課程 2013 年、
後期 2016 年修了

場は少なくないです。また、キャリアに関係なくカジュアルに意見を述べたり、ちょっとした疑問点も気軽に議論できる雰囲気はジュニア研究者として有難く感じます。アメリカの私の研究分野では、大学教員などの研究職への応募の際にDEI (Diversity, Equity and Inclusion) statementの提出が標準であり、研究費の獲得においてもDEIへの貢献度がより重要視される傾向にあります。これまで自身が主催者として携わった国際研究会では、企画の段階で多様なバックグラウンドを持つ研究者の参加率の促進を議論してきました。

私自身も日々多様性の重要性や必要性を学んでいる最中であり、こうした活動を通じてより多くの研究者にとって快適なコミュニティ作りにも貢献していきたいです。

私自身も日々多様性の重要性や必要性を学んでいる最中であり、こうした活動を通じてより多くの研究者にとって快適なコミュニティ作りにも貢献していきたいです。

1970 年入学の物理教室博士前期課程



1975 年頃、研究室メンバーと青少年公園にて



1973 年頃、物理生物ブロック 大学院生の懇親会

私たちは 1969 年の 9 月に理学研究科博士前期課程の入学試験を受験した。この年は全国的に学園紛争が吹き荒れ、多くの大学ではこの時期に院入試が行えなかった。例えば東大では冬に変則的に行われた。そのため名大に合格していた何割かの学生がそちらに流れた。その埋め合わせのために補欠院入試まで行われた。

物理教室の大学院では M1 の間に所属研究室を最終的に決めるのが原則ではあるが、修士課程入試の面接でおおよそ決まっており、早く具体的テーマに沿った研究を始めるほうが何かと有利であった。

またこの時期では名大理学部にとって著名な 2 人の教授が亡くなられた。まずは素粒子物理学の坂田昌一教授が、しばらく病床に伏されていたが帰らぬ人となった。その数年後に分子生物学の岡崎令治教授が亡くなり、どちらも理学部葬で送られた。

それから 50 年以上経った今振り返ってみると、この年に入学した同級生のうち、名大物理教室の教授 2 名を含め国公立大学の教授に奉職した者が 10 人おり、また私立大学や国公立の研究所に職を得た者も数名おり、かなり頑張ったといえる。(宮本 茂昭)

「名大理学進学サポーター」を募集しております

近年、名古屋大学理学部の教育研究を高校生に積極的にアピールして、優秀な学生を集めることの重要性が増しております。ここで進路選択の鍵を握りますのが学校教員等からのアドバイスで、実際、名大理学同窓生から名古屋大学理学部を勧められ、進学を決意したという事例が毎年のように見受けられます。

そこで理学部では、理学同窓生の皆さまから「名大理学進学サポーター」を募ることにしました。サポーターにご就任いただきますと、名古屋大学理学部の入学状況や教育内容、研究内容、卒業生の進路などの最新情報を、随時お送りします。この情報を高校生や中学生の進路アドバイスにお役立ていただくとともに、願わくば名古屋大学理学部への進学をお勧めいただきたい、というのが趣旨です。さらに、同窓生のお立場から、より魅力的な名大理学の実現に向けてご助言をいただきたいとも考えております。(2023 年 10 月現在、28 名の方にサポーター登録していただきました。)

このサポーターは、高校教員等に限定せず、「名大理学進学サポート」をお願いできる方とさせていただきます。あくまでボランティアでのご支援をお願いしたいと考えておりまして、報酬等はありませんし、もちろんノルマ等もございません。また任期もありませんが、毎年、ご支援いただけるかどうか、ご意思を確認させていただきます。

上記にご賛同いただき、「名大理学進学サポーター」就任を希望される同窓生は、登録必要事項を以下のメールアドレスまでお送りください。なお、審査等はありません。ご質問等はこちらのアドレスにお願い致します。

申し込みアドレス：support@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp
登録必要事項：お名前（必須） ご職業（任意）

3. クラス会

旧水圏科学研究所の創設 50 周年記念シンポジウム

旧職員・大学院卒業生同窓会



水圏科学研究所は、1973年に理学部付属の水質科学研究施設を母体として創設され、その後、大気水圏科学研究所、さらに環境学研究科（大気水圏科学系）と地球水循環研究センター（その後、宇宙地球環境研究所へ）等へと変貌を遂げました。2023年は水圏科学研究所の創設から50年となるため、これを記念したシンポジウムを環境共用館（旧・水圏科学研究所の建物）にて10月21日（土）に開催しました。シンポジウムでは、組織変遷のあらましを振り返りつつ現在の様子を紹介した後に、旧職員や卒業生から6件の話題提供を頂き、最後にまとめと全体討論をおこないました。話題提供では、大学院で学んだことがどのように発展してその後の研究活動へと繋がった



のか、水研の果たしてきた役割や、大気水圏科学分野の今後の展望についても、それぞれの思い出を交えた講演が続き、50周年記念に相応しいシンポジウムとなりました。

当日は、対面にて50名弱、オンラインにて10名弱の参加者がありました。参加者の最高齢は旧職員の95歳、現在の職場がデンマークであるという卒業生など、遠方からの参加者もありました。シンポジウムの後に、会場を名古屋駅近くの名鉄百貨店本店9Fのバンケットルームに移し、懇親会が開催されました。こちらは約30名が参加しました。おいしい中華料理とお酒で会話が弾み、参加者のごく一部しかスピーチの時間を取れなかったのは残念でしたが、あつという間の2時間でした。

（文責 長田和雄）

岩浅邦彦先生を囲む会



ご講演中の岩浅邦彦先生

2023年10月21日（土）名古屋大学「国際交流貢献顕彰」受賞のためホームカミングデイにお越しくださった名古屋大学全学同窓会米国支部初代支部長の岩浅邦彦先生をお迎えして、物理学教室旧K研出身者を含むゆかりの方々が集い、旧交をあたためました。ご参加のみなさまは「名古屋大学における生物物理学研究50年」などこれまで名古屋大学にて開催されたシンポジウム等にもご参加くださった方々がほとんどで、懐かしく思いました。

岩浅先生は、1974年に学位を取得されたのち、カナダ、米国、当時ユーゴスラビアのスロベニアにおいてご研究を進められ、1979年から2011年まで米国国立衛生研究所（NIH）に奉職

され神経や聴覚の生物物理学について理論・実験の両面からご研究をされてきました。現在は special volunteer として NIH にて引き続きご研究をされています。ご講演では、特に米国における研究予算の源として有名な NIH について内側から見た様子についてお話しくささいました。研究機関としての NIH そのものについて初めて聞くことばかりでした。また、岩浅先生が長年ご研究されてきた内耳の外有毛細胞についてお話しくささいました（写真）。ご講演ののち、対面、Zoom にてご参加のみなさまの近況報告がありました。来日早々授賞式後に夜までご参加くださった岩浅先生、ご参加くださったみなさまに感謝いたします。（槇 互介）

『松本研（分子第6講座）同窓会』



令和5年8月26日（土曜日）にホテルグランビューガーデン沖縄（沖縄県豊見城市）において、生命理学専攻生体応答論講座（分子第6講座）の同窓会が開かれました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのために延期が重なり3年越しの実現となりましたが、27組43名（うち8名はオンライン）の参加者があり大変盛り上がりしました。当日は、最初に「シグナル伝達研究の最前線」と題した研究発表会が開催され、卒業生らの最新の研究内容が紹介されました。それぞれが独創的でハイレベルな研究を展開しており、予定の時間を大幅に超過し

て活発な議論が行われました。この会を通じて、異なる研究分野の情報をお互いに共有することができ、それをきっかけに様々なコラボレーションのアイデアが生まれるなど、非常に有意義なディスカッションができました。夜は近くのレストランに場所を移して懇親会が開かれ、沖縄食材を使ったビュッフェ料理を参加者全員で楽しみました。ご家族連れの参加者もおり、とても賑やかな会となりました。松本先生を含め皆さん夜遅くまで久しぶりの再会を楽しまれていました。（高江洲 義一）

名古屋大学地球惑星科学科同窓会（名球会）第8回総会・講演会・同窓会



総会・講演会の様子



同窓会・懇親会



会場での記念撮影

2023年11月5日に、4年に一度の「名球会 総会・講演会・同窓会」が開催されました。13:00～14:00に環境総合館レクチャーホールにおいて、名球会の総会・講演会が開催されました。今回は初めてのハイブリット開催（現地、Zoom）でしたが、特に支障もなく無事に終了することができました。講演会は、「生命の起源を探る - 卒業研究から現在に至るまで -」と題し、三村耕一先生（地球化学講座 教授）にお話をいただきました。講演会には64名の参加者（現地参加：31名、オンライン参加：33名）が集まり、熱心に聞き入るとともに、活発な質疑応答が行われました。

その後、ルブラ王山に移動し、15:00～17:00に名球会同窓会が開催されました。こちらには41名が参加し、久しぶりに会う同期や先輩・後輩、先生と旧交を温めました。今回は記念品として、“地球惑星科学科”らしく、参加者に「泥岩製のナイフ（在校生の手作り）」を贈呈しました。受付横では在校生がナイフ製作の実演を行い、卒業生と在校生の交流が盛んに行われました。これまでコロナ禍で自由に旧交を温める機会がほとんどなかったためか、今回の同窓会は前回に比べて、従来は少なかった30～40歳代の参加が多かったように見受けられます。次回は4年後の、2026年秋に開催される予定です。

（東田 和弘）

傘寿を目前にしてのミニ同窓会開催



シンポジオンでの記念写真

私達は、昭和39年（1964年）入学の同窓生です。ひよんなことから総勢22人のミニ同窓会が、さる10月26日、豊田講堂内のシンポジオンで開催できました。10数年前の全体同窓会がきっかけでその後、「青葉会」と名付けた10人程の親睦旅行を目的としたグループができ、関東、中部、関西と3つのグループが1年ごと持ち回りで担当してきました。今年は中部地区が担当で、見学地を名古屋市と決め、懐かしの大学訪問をその1つとしました。そこにちょっとした縁で女性を中心とした別グループが加わる事になり、それが口コミでひろがって今回の会となったわけです。

皆、80年近くを生き抜いてきました。卒業後は、それぞれに、名大理学部卒業生の誇りを持って社会の最前線に立ってきました。そのことは、今回の会の数分の全員の自己紹介で十分伝わりました。外見こそ、随分、十分に老いました。澆刺とした20代のあの若さを思いだすのに互いに時間がかかりました。

案内を受けました理学部校舎の周辺の変わりようには驚きました。実験の合間に興じたバラック小屋の卓球場などは、当然ながら影も形もありません。

2008 ノーベル賞展示室で、坂田昌一先生の面影に接しました。当時、学部長であられ、要職の中で、1年間「量子力学」の講義を担当されました。他大学からの聴講もあり満室であったのを覚えています。この不良学生が1日も欠かさず出席、その講義のノートを未だ大切に残しています。また、私の出身高校の学年同窓生が後輩全生徒に、今は亡き益川先生の講演をプレゼントする企画を持ち、講演当日の夜、先生に一献を傾けながら、坂田先生の思い出話ができたと懐かしく思い出しました。

今回の会に、縁なく出席できなかった同窓生の方々、全体に呼びかけた会でありませんでしたのでお許しください。

（大石秀次 物理学科 昭和43.3卒）

第4回数理科学同窓会 総会



総会



集合写真

去る10月21日（土）、数理科学同窓会総会が開催されました。2011年の第1回総会以来4年に一度開催され4回目を迎えました。総会では第12回飛田賞（学生奨励賞）の授賞式の後、二つの講演がありました。伊藤由佳理氏は、自身の活動紹介や、日本学術会議の提言を用いて数学の学問としての可能性や、数学教育に関わる話を、関真一朗氏は特定の形の素数の無限性が示されている幾つかの例で共通する仕組みを「住処メソッド」と名付けて分析した内容を、分かりやすく興味深くお話いただき、大変充実した講演だったとの感想が寄せられました。

総会後は、Mei-diningにて懇親会が行われました。同窓会副会長の乾杯と挨拶、OB代表の二人からのスピーチに続き、今回は少し趣を変えて、アトラクションとして地元の講談師旭堂

鱗林により「藤井聡太物語」が語られました。将棋史上初の「八冠独占」達成直後だったこともあり大いに盛り上がりました。和やかな歓談の後は、若手のOB



懇親会（Mei-dining）

や飛び入りのスピーチがあり、最後はもう一人の副会長が4年後にまた会いましょうと締めくくりました。在学生在を無料招待としたこともあり在学生の参加が30名を超え、参加者は延べ119名（総会106名、懇親会97名）で、同会は功裡に幕を閉じました。（事務局 小崎和子）

4. トピックス

森 郁恵 教授、東レ科学技術賞を受賞 - 「動物行動を制御する神経回路の基本原理の解明」



森 郁恵 教授

授賞式にて (2023年3月15日)

線虫 *C. elegans* は、体長わずか1mmの生物ですが、多様な刺激を受容し、記憶・学習・意思決定することができるため、動物行動の根本原理を研究するための優れたモデル系を提供します。私は、温度と餌の学習行動である温度走性に着目し、この行動に重要な神経回路を同定し、動物の感覚や行動に重要な遺伝子を明らかにしました。また、神経科学の革新的計測技術を線虫の神経回路研究にいち早く取り入れて、線虫の自動追尾装置や神経活動の計測・操作装置を企業と共同で開発しました (図)。その結果、従来の実験手法ではわからなかった新しい神経回路の制御関係が明らかになりました。

線虫研究の創始者であるシドニー・ブレナー博士は、「科学の

進歩は、新しい技術、新しい発見、新しいアイデアに依存する。この順番が重要だ」と言っています。東レ科学技術賞の受賞は、この科学と技術の関係性においても、私の人生にとっても、極めて重要なものになりました。受賞対象の研究は、研究室のスタッフ、研究員、学生さんと共同で、成し遂げられました。深く感謝いたします。今後も、線虫を使った厳密な研究を通して、動物行動の本質的な理解を進めたいと思います。



図：顕微鏡企業と共同で開発した線虫行動追尾装置や神経活動の計測装置

第31回 有山シンポジウム - 理学の課題解決に向けて

2023年12月4日に、5年ぶりに有山シンポジウムが開催されました。理学のかかえる諸問題をみんなで考え、全学部的討論を行い、広く意見を収集するものとして1962年から始まり、近年は数年に一度開催されています。

冒頭で、寺崎理学部長から「はじめに」として、今回の有山シンポジウムを再起動と位置付け、テーマを絞り、2コマ、3時間程度で集中的に議論することが紹介されました。

前半では、「女子学生・女性教員比率の向上」がテーマに取り上げられました。現状として、理科離れは小学校から中学校で起きている点、また、学生から社会人になる際に女子比率は低下している点等が紹介されました。その後、工学部での女子枠導入などの取り組みが紹介されました。後半では、「博士後期課程充足率の向上」をテーマとし、理学研究科、多元数理科



理学部B館5F B5講義室(B501)にて

学研究科、環境学研究科地球環境科学専攻、そして、博士課程推進機構での取り組みが紹介されました。それぞれの講演後や総合討論の時間に活発な意見交換が行われました。

シンポジウムの後、懇親会が開催され、食事をとりながら率直な意見交換がなされました。(原田 正康)

博物館 野外観察園



野外観察園 右側に2棟の温室がみえる

野外観察園は1963年に名古屋大学教養学部生物学教室の実験圃場として作られました。教養部廃止による改組の後、2003年度からは博物館に管理運営が委ねられました。2005年からは一般の方も散策できるようになり、生きた標本に触れる施設となっています。4320㎡の敷地には実験ゾーンと散策ゾーンがあり約800種の植物が見られます。実験ゾーンには2棟の温室と小さな池、実験用植物を栽培する圃場があり生命



展示室の様子

理学の材料も栽培しています。散策ゾーンは半自然林ですが、かつての生物の先生方によって植えられた植物や、鳥によって種が運ばれて育ってできたものです。また併設のセミナーハウスは展示や自然教育に利用されています。そのほか年に2回、野外の観察会を行っています。春の観察会では日本最小といわれるハッチョウトンボの観察ができるかもしれません。(吉野 奈津子)



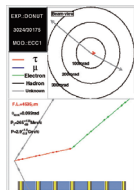
ハッチョウトンボのオス
体長2cm程度



※次回の春の観察会は2024年5月22日(水)です。
開園 月～金 10:00～16:00 (土日祝休み)
今後の展示予定 (開催期間はHPをご確認ください)

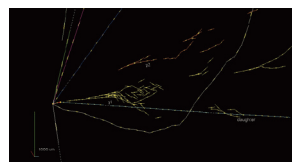
丹羽公雄 名誉教授、石井健一郎賞を受賞 - 「写真乾板自動読み取りによるタウニュートリノ発見とニュートリノ振動の検出」

2023年3月18日(土)に第一回「石井健一郎賞」の受賞者として丹羽公雄名誉教授が選ばれ授賞式および記念講演会が行われました。今回の受賞では、素粒子物理学における、以下の傑出した貢献が評価されました。



タウニュートリノの発見：それまでに未検出であったタウニュートリノを米国グループとともに発見へと導きました。これにより、タウニュートリノの存在を名実ともに実証しました。

DONUT 実験によって世界で初めて検出したタウニュートリノ反応 (1998年)



ニュートリノ振動のアピランクス法による検証：国際共同研究 OPERA 実験を主導し、ニュートリノ振動の検証を行いました。ニュー

OPERA 実験での $\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{\tau}$ 振動によって生じた ν_{τ} の反応 (2010年)

トリノが異なる種類に変化する現象を明確に確認し、ニュートリノの質量の有無に決着をつけたといえます。これらは、極めて高い空間分解能でありながら大規模化が可能である反面、解析に手間のかかっていた原子核乾板技術を丹羽名誉教授によるアイデアや信念によって発展させたことで実現したものです。



丹羽公雄 名誉教授

今回の受賞に際して行われた記念講演では、丹羽名誉教授の研究者としての哲学や、いかに困難を乗り越えられてきたか等の興味深いお話とともに、科学の発展や、未来の研究者たちにとっての指針を述べられ、大変有意義な授賞式・講演会でした。

(中野 敏行)

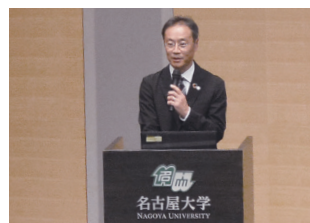
第 19 回名古屋大学ホームカミングデー

2023 年「理学同窓会企画」 - 総会 - 同窓生の近況報告 - 講演会 - 懇親会 -

2023年10月21日(土)「第19回名古屋大学ホームカミングデー」は、キャンパスで実施する企画を多数ご用意し、引き続きオンラインでもご参加いただける形で開催いたしました。理学同窓会では、今年も、①総会、②同窓生の近況報告、③講演会の3つのプログラムを、理学南館大講堂(坂田・平田ホール)にてハイブリッドで開催しました。また、2019年以來となる懇親会も開催することができました。

① 総会では、理学同窓会会長の寺崎一郎 理学研究科長から、『理学この一年』としてお話があり、原田正康 常任評議員から同窓会の活動報告がありました。

② 同窓生の近況報告では、2名の卒業生にご講演いただきました。奥西 勲氏からは「わさびの機能と作用」、そして、希少なブルーローズ(青いバラ)の栽培と商品の生産を進めていることについて、山後 公二氏からは「国土地理院の業務について(勤続30年を迎えるにあたって振り返る)」と題して、お話いただきました。



奥西 勲氏



山後 公二氏

お二人からは、理学での学びを将来に活かしてほしいと在校生・卒業生の皆さんに力強いメッセージを送っていただきました。



会場の様子



田村 康氏

③ 講演会では、山形大学 理学部理学科 教授の田村 康氏に、『細胞のエネルギー生産工場:ミトコンドリアのお話』と題して、ミトコンドリアの魅力と、「細胞内で作られる仕組み」についてご紹介いただきました。講演後には、参加いただいた皆さまからの質問が活発に続き、充実した講演会となりました。



寺崎同窓会会長の挨拶と乾杯ではじまった懇親会は、久しぶりの再会で、いくつもの歓談の輪ができていました。本日のご講演者からのご挨拶、ゲスト OB のサロマ氏と岩浅氏からのスピーチもあり、1時間では足りないくらいでしたが、懐かしい同窓会のひとときとなりました。



8月に収穫したニュートンのリンゴの実もお披露目しました。(詳しくは10ページをご覧ください。)

*「同窓生の近況報告」と「講演会」は、10月31日までアーカイブ配信をしました。



2023 年度（第 76 回）物理学教室憲章記念日スポーツ大会

物理学教室では、物理学教室憲章記念日に合わせ例年スポーツ大会を開催しています。多くの研究室が参加した大会となった今年の各種目優勝チームからのコメントをご紹介します。

運営担当の研究室として優勝できて光栄です。チーム代表 D1 岩口さんや中澤先生のご尽力及び血と汗と涙の練習を重ねた結果を十二分に出せました。来年も必ず優勝します。(バレーボール、Uxg) 本番直前に出場を決めましたが、各々ができる限りの努力をした結果が実を結びました。フットサルでは隣の Uxg 研に負け、U を剥奪されていたので、ここで取り返すことができ、嬉しい限りです。(駅伝、Uir 研) この度はコロナ明け初めての大会で優勝できたことをとてもうれしく思います。次回の大会も優勝を目指して練習していきたいと思ひます。(フットサル、Y 研) 今年は 30 組が参加する大規模な大会になり、

多くの試合を楽しむことができました。特に王座に君臨していた川村先生との対戦、幸運にも勝利できたことが非常に良い思い出になりました。(バトミントン、Y 研) 現総長杉山氏がおられた研究室として、「自由闊達」を体現したチームを目指しました。我々が残した成績は、今後の名古屋大学と阪神タイガースの発展を約束するものであると思ひます。(ソフトボール、C 研) 初めての物理学教室憲章記念日スポーツ大会に参加し、さらに優勝することができ、大変嬉しいです。この経験は、研究生活の新たなモチベーションになりそうです。来年も優勝を目指して、日々研究に精進したいと思ひます。(卓球、R 研)



駅伝優勝チーム、Uir 研

理学系女子カフェ



領域を超えた女子学生同士の交流を目指し、理学系女子カフェを開催しています。理学部・理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科の女子学生であれば誰でも参加できるイベントです。穏やかな雰囲気なかで、研究内容・人間関係・進路など多彩なトピックについて会話を楽しんでいます。まだ開催回数は 2 回ですが、すでに学年・学科を超えたつながりが生まれ、研究生活でのヒントの共有も行われつつあり、女子カフェ開催の意義を感じました。

近年、理系分野における女性比率の低さが課題として挙げられていますが、当事者がこの状況をすぐに変えるのは難しいと思ひています。女子学生が少ないことで、体調やライフプランなどの女性特有の悩みを一人で抱え込むことになったり、本人の性格に合わないコミュニケーション形式への適応が求められたりするという声を聞くことがあり、この問題が学生生活の充実度や研究におけるパフォーマンスに及ぼす影響は無視できないのではないかと考えました。

参加者アンケートでは女子学生同士の交流を歓迎する言葉とともに、イベント内容をさらに発展させるような要望や提案をいただいています。参加者の皆様の声を生かしながら、女子カフェを女子学生がのびのびと前向きに過ごすためのイベントにしていけたらと考えています。また、この女子カフェは理学研究科にご後援いただきました。深く御礼申し上げます。

(小野山弘桂)

ニュートンのリンゴの木 2023.

理学部 E 館の玄関前に植えられているニュートンのリンゴの木に、赤いリンゴを結実させることを目標に、2018 年から人工授粉に挑戦しています。

リンゴの花がたくさん咲いた 4 月中旬、今年も全学技術センターの伊藤耕さんから、農学部の果樹園に植えられているリンゴの木の花粉をわけていただきました。授粉作業は、生命理学領域 M1 の王愛里さんと、M2 の桑山翔悟さんにも手伝っていただきました。

酷暑の影響もあってか、害虫の被害がほとんどなく順調に生育し、7 月中旬には 5cm ほど



4 月中旬花がたくさん咲いているリンゴの木



最後まで木に残っていたリンゴ

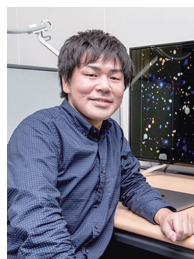
に大きくなった青い実を 8 割確認しました。毎年この頃に鳥に突かれほとんどの実が落果してしまうため、今年は、昨年よりもさらに頑丈に防鳥網をかけ、見守りました。8 月に入り、やはり半分以上が鳥に突かれ、残りの実も自然落果しましたが、最後の 1 つとなったリンゴは、これまで実った中で、8.5cm と一番大きく育ち、一番赤く色づいたリンゴで、ガードしていた防鳥網の中で、8 月 9 日に自然に落果しました。植樹してから 12 年が経ち、リンゴの木が大きく生長し、実のなる数が増えてきました。今後も大切に見守って行きたいと思ひます。



収穫した 8.5cm のリンゴ

令和5年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」

名古屋大学 高等研究院の梅畑 豪紀 特任助教、宇宙地球環境研究所の早川 尚志 特任助教、核融合科学研究所の前山 伸也 准教授が、令和5年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞されました。本賞は萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた若手研究者を表彰するものです。

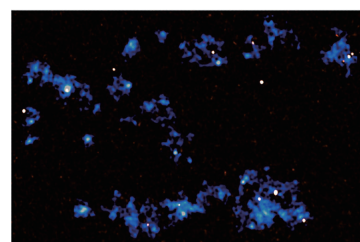


梅畑 豪紀
高等研究院 / 理学研究科 YLC 特任助教

この度「原始銀河団の活動銀河をつなぐ宇宙網の研究」について、令和5年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞を頂くことができました。応募に際し推薦下さいました先生方、これまでお世話になった方々に深く感謝いたします。

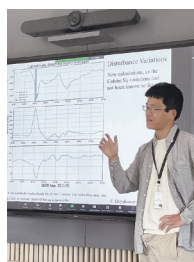
私はこれまで、初期宇宙における銀河とその中心に潜む大質量ブラックホールの形成・進化に興味を持って研究活動に携わってきました。100億年以上昔の宇宙では大質量銀河や大質量ブラックホールが急速な成長を遂げており、この成長期をもたらした機構の解明が大きな課題となっています。本研究では、115億光年彼方の銀河の群れ集まった領域、原始銀河団の中

心部において、水素ガスの蜘蛛の巣状のネットワーク構造「宇宙網」の撮像に成功しました。そして大質量銀河や大質量ブラックホールといった活動銀河が宇宙網に沿って成長していることを突き止め、成長期における宇宙網からのガス供給の重要性を示すことができました。



115億光年先の宇宙網(青色の部分)と活動銀河(明るい点源)

現在、初期宇宙の探査は新たな望遠鏡の登場もあり、革新の時代にあります。今後も現代に至るまでの宇宙の歴史の解明に向けて、日々の研究を進めていきたいと思っております。

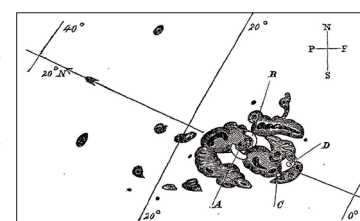


早川 尚志
宇宙地球環境研究所 特任助教

この度、弊研究『歴史文献を用いた過去の激甚宇宙天気現象の研究』につきまして、文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞いたしました。この度の受賞は、ご指導いただきました先生方、研究をご一緒させていただいた共同研究者の皆様のお力あつてのことです。この場をお借りして深謝いたします。

太陽面で巨大な爆発現象が発生すると、激甚宇宙天気現象が発生し、人類文明の基盤インフラに大きな被害を与えることがあります。しかし、このような現象の発生は極めて稀で、これまで現代科学観測のデータベースでは十分に捉えられて来なかった面があります。そこで弊研究では、

アナログ記録や歴史文献の分析を手掛かりに、激甚宇宙天気現象を過去三千年分に渡って調査し、現代科学の知見や数理モデルを適用してその内容を復元することで、太陽地球環境や宇宙天気の極限状態の究明に取り組んでいます。



観測史上最古の太陽フレアのスケッチ (Carrington (1859) より)

この研究成果は、太陽地球環境の極限状態の復元、将来的な宇宙天気災害の被害想定・減災について重要な手掛かりになり得ます。今後とも世界各国の歴史文献の調査を進めることで、過去の激甚宇宙天気現象の様子をより鮮明に復元していこうと考えております。

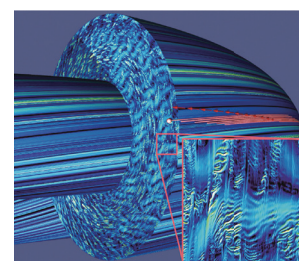


前山 伸也
核融合科学研究所
メタ階層ダイナミクス
ユニット 准教授
(推薦時:名古屋大学
理学研究科 講師)

この度、「磁化プラズマ中のマルチスケール乱流輸送現象の研究」について、令和5年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を賜りました。本研究は、私の東京工業大学博士課程での核融合科学研究所との共同研究による磁化プラズマ乱流シミュレーションの物理モデル拡張から始まり、日本原子力研究開発機構でのフラグシップ級スーパーコンピュータ向け大規模並列計算技術開発、名古屋大学でのマルチスケール乱流輸送現象の物理機構解明という一連の研究による

ものです。ご推薦くださった先生方をはじめ、お世話になった皆様に深く感謝いたします。

プラズマ中では、質量の異なる電子やイオンの応答に伴い、大きく離れた時空間スケールを持つ揺らぎが自発的に励起されるマルチスケール乱流が生じます。本研究では、大規模数値シミュレーションと非線形相互作用の詳細解析を通じて、異なるスケールの乱流間の相互阻害性といった普遍性が見えてきました。また、マルチスケール相互作用による核融合プラズマの閉じ込め劣化または改善効果も明らかになりました。



電子・イオンスケール揺らぎが混在したマルチスケール乱流

今後は、流体力学や数理統計学との連携も視野に入れつつ、研究を展開していきたいと思っております。

近藤孝男先生 追悼企画

2023年11月16日に、理学同窓会草創期に同窓会長としてご尽力された近藤孝男先生がご逝去されました。理学同窓会報では、近藤先生の先代同窓会長の大峯巖名誉教授、研究を共にされた岩崎秀雄教授（早稲田大学）に追悼文を執筆いただきました。

敬愛する近藤孝男先生を偲ぶ

私は、1995年から2005年まで、シアノバクテリアの時計遺伝子のクローニングから概日リズムの試験管内再構成系の確立までの10年間、近藤先生のすぐ傍で掛け替えのない研究の日々を送らせていただいた。先生には偉ぶるところが殆どなく、その柔和な笑顔と朴訥とした飾らぬ語り口、気さくなユーモアは、私たち弟子だけでなく、内外を問わず多くの人々を魅了した。若者との議論も大好きで、私たち若造にもいつも耳を傾けてくださった。実は、近藤先生の重要な研究成果の中には、研究着手した当初の先生のアイデアが実験をしているうちに反証され、大きく方向転換した形で論文にまとめたものが少なくない。その過程では、若手との丁々発止の議論がしばしば交わされた。若気の至りで私たちが率直な（不用意な）発言をしたことも数知れない。先生なら大丈夫という安心感と信頼があったからこそで、その包容力には感謝しきれない。同時に先生には（良い意味で）かなり頑固な面もあったが、そんな場合でも長時間かけて人の意見をじっくり聞いたうえで判断しておられた。たまに見せる決然とした厳しい表情には迫力があり、そういう時は大変説得力があった。

研究の上で先生のすごいところは、まずもって「生物時計愛」が尋常でなかったことだ。生物時計に関する本質的な課題を掲げ、最適な実験系を選び続け、測定器やプログラムの多くを自作した。必要に応じて研究室の主軸の手法を劇的に

転換させることも厭わなかった。先生の凄みは節目節目で発揮されたが、私から見てそれを最も感じたのは、時計の試験管内再構成系という金字塔的成果を成し遂げる過程よりも、むしろそのあとだった。試験管内での時間生物学という新たな地平を、驚くほどの集中力で切り拓き、その探究は亡くなる直前まで衰えるどころか加速し続けた。その過程で、強靱な思考に基づく、他の追従を許さない深度の独創的な発振仮説（デュアルカップリング型調和振動子仮説）を練り上げていく。先生はその意義を、亡くなる直前まで周囲の者に熱く語り続け、それをまとめた論文の完成を目指した。その執念はすさまじく、年を追うごとに鬼気迫るものとなっていった。論文の完成を見届けることができなかったことは無念だったに違いない。でも、こんなにも多くの不朽の成果と宿題を遺していただいた。ひとの何倍も充実した豊かな研究人生を全うされたと思う。

しかし、亡くしてみると、偉大な研究者とかいうより、何よりチャーミングで柔和な先生のお人柄がとめどなく思い出されます。ただただ残念でなりません。同時にさぞ辛かったであろう闘病から解放されたことに少しほっとしてもいます。お疲れさまでした。先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。どうぞ安らかにお休みください。

岩崎 秀雄（早稲田大学 理工学術院 教授、元 理学研究科 助手）

近藤さんとの思い出

約20年前近藤さんの研究室を訪れた。余りに突然の訪問だったので近藤さんは驚いたようだった。そのとき私は分子系の特定領域研究の立ち上げを考えていた。近藤さんが分子時計の研究を進めているとある人から聞いてなんと面白い系を研究している人だと思った。その研究内容と分子時計が動く原理をずかずかと質問した。其れが近藤さんとの初めての出会いである。近藤さんはシアノバクテリアが如何に時間を刻み、其れに関与するタンパク質がどんなものか、どのように実験を進めているかを詳しく丁寧に説明してくれた。実は近藤さんは長く基礎生物学研究所の助手であり、ほぼ私と同時期に岡崎で過ごしたのだが会う機会がなかった。

名古屋大学では近藤さんとのつきあいは長かった。私が研究科長をしている時、彼は評議員として本当に色々助けてくれた。近藤さんは穏やかな人柄だが、研究科の為になる事であれば粘り腰で、建物や土地の問題また授業改革など多くの難問を解決に導いてくれた。

近藤さんは若い頃、ヒマラヤなど幾つかの高峰を登ったスポーツマンであった。また車好きで水色のスポーツカーを運転していたが、15年前にそのスポーツカーのトランクを閉めたとき胸に激痛が走り心筋梗塞を発症した。その時、奥様が日進のご自宅から八事の第二赤病院まで信号を無視して猛スピードで運転されたと聞いている。近藤さんは心臓に大きなダメージを受けたが果敢な精神力と気力で研究をつづけ、また研究科長の責務を果たした。そして名古屋大学の高等研

究院の院長を務めた。

数年前癌にも罹ってしまい身体に重荷を背負ってしまったが、生物時計の研究への情熱はますます大きく、生物時計の解明へ没頭し、特にその動作原理と機械時計とのアナロジーを一所懸命に話していた。

長年の生物時計の研究結果により中日文化賞、朝日賞、学士院賞、文化功労者など数多くの報償や称号を取得されたが、近藤さんは虚飾が嫌いで学士院賞を受賞されたときの祝いの会で「僕はこういう会は苦手で」と謙虚な挨拶をしていた。が、その会で奥様が幾つかの研究や家庭内でのエピソードを話されると嬉しそうであった。

最近は近藤さんと直接会うことが出来ず Zoom を通して幾度か話す機会があった。近藤さんは「カイC」という（時を刻む源の）分子との出会いが本当に幸運であったと何度も述べていた。そろそろ研究室を閉めて、若い人達に生物時計の研究を続けてもらおうと思っていると話していた。現在、分子科学研究所の秋山教授を初めとする多くの研究者が挑んでいる。ひたすら何十年にも渡り一つの研究に打ち込んだ近藤さんこそ「科学の女神が微笑んだ」数少ない真の研究者である。分子時計が最終的に解明されると深遠な自然の知が明らかになるであろう。

近藤さんが亡くなった。研究への熱情に溢れたあの穏やかな近藤さんの話をまた無性に聞きたい。

大峯 巖（名古屋大学名誉教授）

6. 退職者からのメッセージ



木村 芳文 教授
多元数理科学研究科

多元数理科学研究科での 28 年間

私が名古屋大学に着任したのは 1995 年の 4 月で、丁度多元数理科学研究科が発足した時でした。関東出身で学位取得後は長くアメリカにいたため、名古屋での生活は初めてで、右も左もわかりませんでした。ただ物理出身の私でも「名古屋の数学」の名声はよく耳にしていたから、大いに期待を抱いて赴任しました。以来 28 年間、多士済々なる研究者の方々に囲まれて楽しく研究を続けてこられたのは本当に幸せであったと思います。

私の専門の流体力学は、物理と数学の境界領域にある分野です。ここで数学の視点や問題意識を学べたことは研究の幅を広げる上で大変役立ちました。私が大学院を出たころは日本の大学は重点化の前で、特に物理ではオーバードクター問題が深刻でしたから、学位をとったら海外で武者修行をするのが当たり前だと思っていました。幸い、アメリカの環境は未だ元気だったのでいくつかの研究機関を渡り歩いて色々な経験をすることができました。数学の新しい研究科ができるということでお誘い頂き、日本に戻り名古屋大学にお世話になる決心をしましたが、私にとっては大きな転機であったと思います。

多元数理科学研究科は多くの分野の研究者が在籍し、その方々と自由に交流できることが特色だと思っています。これを活かしてユニークな研究成果を上げ続けて欲しいと願っています。



小林 亮一 教授
多元数理科学研究科

自由な研究

1992 年から約 30 年間、名古屋大学で研究と教育に携わって来ました。最終講義と同様、自分的には最も気に入っている直近 20 年のことを書きます。三次元ユークリッド空間内の全曲率有限の完備極小曲面のガウス写像の値分布に関する未解決問題への挑戦を契機に「測度論的位置解析」（私の造語です）と言う研究方向を意識するようになりました。長い間、どういう形の研究なのか判らないままでしたが、6 年前に留学生から教えてもらった（これでセミナーをやりたいと持ってきた）論文の衝撃的な内容に刺激され「測度論的位置解析」とはどんな形の数学なのか、ある日突然、その姿が見えました。そして、同じ形が複素幾何学（特にディオファントス幾何学）の種々の問題に現れることに気がつきました。同じ形が（一見すると離れて見える）問題に共通して現れる風景ほど、数学研究で嬉しいものはありません。定年間際になって、代数多様体への正則曲線論とか、代数的非双曲性から導かれる解析的性質のような、同時にアクセスしにくい問題への（もしかしたら）統一的な視点を見つけられたかな、と感じています。私の研究はここから始まるのだと言えます。自由な研究を支えてくださった多元数理科学研究科の皆様に感謝いたします。実際、多くの大学院生（この数年は留学生が多かった）との自由で生産的な共同作業に恵まれました。



金銅 誠之 教授
多元数理科学研究科

定年退職を迎えて

私は大学院生時代と合わせると 34 年間名古屋大学にお世話になりました。自由に研究できる環境で本当に感謝しております。大学院生の頃、大学はとてものんびりしておりました。博士の学位記を理学研究科の事務に取りに行ったとき、忘れていた修士の学位記も「持って行って」と一緒に手渡されたのを今でも覚えています。博士前期課程数学専攻の同級生は 3 名、後期課程は私一人という、今では考えられない時代でした。多元数理科学研究科発足とともに名古屋大学に助教授として戻って参りました。法人化後は個人的にも大変な時期はありましたが、自由に研究できる環境は学生時代と変わっていません。世の中の変化に大学が対応していかなければならない時代となりましたが、理学研究科・多元数理科学研究科の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。最後に我が家ととっている朝刊のコラムから印象的だった文を抜粋して終わりにしたいと思います。

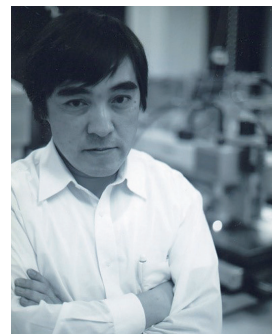
『人は自分の思いを手本のない自分の言葉で話すしかない。ここは大学ですから、会話の授業はやりませんよ。ある仏文科のフランス人講師 … 加藤（注：加藤典洋）の随想集「大きな字で書くこと」から。』（朝日新聞朝刊 折々のことば 2020 年 10 月 11 日）



徳丸 宗利 教授
宇宙地球環境研究所
(旧太陽地球環境研究所)

充実した時を過ごせたことに感謝して

私は 1995 年春に名古屋大学太陽地球環境研究所（愛知県豊川市）の助教授として採用され、以後 28 年間、研究所にて勤務してきました。その間、大学の独法化や研究所の名古屋移転、宇宙地球環境研究所への改組などがありましたが、一貫して電波望遠鏡を使った太陽風の観測研究に取り組むことができました。研究に使った電波望遠鏡は、独自の技術に基づいた世界的にユニークなものです。また太陽風の研究においても、当研究所は自前のデータを活かして世界をリードしてきています。このような素晴らしい環境で長い間、スタッフや学生の皆さんと一緒に学び成長できたことは、私にとって幸いであり感謝したいと思います。名古屋大学での出来事を振り返ると様々なことが思い出されます。特に学生の皆さんと研究のことで熱く討論し、時に夜遅くまで飲み会をしたことは、私の大切な思い出です。名古屋大学のメンバーになって強く感じたのは、地域の人たちからとても信頼されていることでした。これは名古屋大学の先人たちの貢献によるものと思います。この期待を裏切らないため、自ら研究成果を出すとともに実力を身につけた学生を社会に送り出すことに重い責任を感じてきました。退職にあたって、その重荷を下ろすことができほっとしています。今後は、やり残した課題や新しいことにゆっくり取り組んでいきたいと思っています。



中村 光廣 教授
未来材料・システム研究所
(半人前がさらに半人前だったころ)

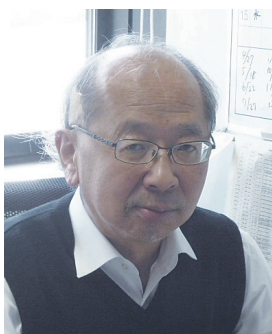
退職の日

居室で最後の掃除をしていたら、聞きなれた声が向かいのサロンから聞こえてきた。研究室創始者の Nさんと坂田門下の Mさんだ。

N「日本学術会議の件、戦前の失敗を繰り返す気ですかね。」M「学問の本質を理解できてない。創造活動は管理できないという事もわかってない。しかも間違いを認めて改める度量もない。たわけだ。」N「それにしても現役の大学人は何をしているのでしょうかねえ。選択と集中という愚策の前に、平和憲章も自治も風前の灯ではないですか。」M「研究だけでなく社会的な問題も取り扱えないと一人前の科学者とは言えない」が坂田さんの口癖だった。今の学者の多くは半人前だ。」N「今度退職する中村君は首相と同年、確かに半人前ですよ。ここに呼んで退職にあたっての反省の弁でも聞きましょうか？ 中村君、そこにいるのはわかっていますよ。」

中村「(ギョツ)・・・あ、Nさんお久しぶりです。お元気そうで・・・？ (確かNさんは6年前、Mさんも2年前に亡くなられた・・・お彼岸で戻ってみえたか・・・)」

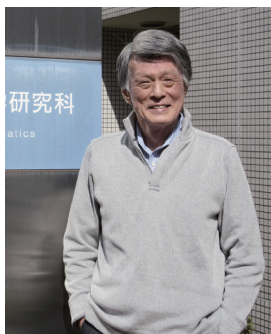
この状況下、大学を去るにあたって解放感がないわけではない。しかしそれ以上に暗い気持ちになる。1980年に名大に来た時に感じた自主自律の風とおしの良い開放的な空気は果たして今もここにあるだろうか？この後、後生の人たちの研究者人生が、悔いのない充実したものであることを心から願う。



松原 豊 准教授
宇宙地球環境研究所
(旧太陽地球環境研究所)

無駄な講義や演習はない

私が学部学生するとき、Sachio Hayakawa という人の Cosmic Ray Physics という本で勉強しましたが、著者が何者かはわかっていませんでした。私が名大に赴任する直前まで名大の学長だった早川幸男先生でした。その頃には、早川先生の業績は理解していたのですが、その後、何年もたって、名古屋大学理学部の優秀さを理解するようになりました。赴任時の私の所属は太陽地球環境研究所（現宇宙地球環境研究所）だったのですが、幸い理学研究科の協力教員として、物理の学部教育にも携わることができました。学部教育、と言っても私の場合には演習や物理実験でしたが、講義とは違って直接学生と話ができるのがよかったです。量子力学演習で一つ私が後悔していることがあります。演習の問題は講義担当の先生が用意するのですが、ある年の演習で、経路積分（説明しませんが）の問題が多く用意された年がありました。1問解くのに、教室の黒板の前後を使う必要のある問題が多くて、演習時間が無駄に長くかかりました。頭にきた私が「経路積分は、ほとんどの人は知らなくても困らない」と学生に言ったのです。その3か月後の物理学会の総合講演で江崎玲於奈博士が「私はこれでノーベル賞を取りました」と言って見せたスライドが経路積分の式でした。言い方を間違えたと強く反省した瞬間です。学部の演習や実験を「将来役に立つかもしれない」と思ってやってもらったら、と今では思っています。



松本 耕二 教授
多元数理科学研究科

定年退職を迎えて

学位を取得して最初に就職した盛岡の岩手大学から名古屋大学に移ってきてから、もう 28 年が過ぎました。当初の古色蒼然とした研究室には戸惑いましたが、やがて新築の多元数理科学研究科の清潔な部屋に移ることができました。名古屋大学は研究を最大限に重視する姿勢が明確で、長期の海外出張などもいくらでも認めてくれ、私もフランスやドイツなどに何度も長期滞在して、また時には海外の研究者を逆に招聘したりして、活発な研究生活を送ることができました。多元数理科学研究科の建物のすぐ東側はかなり広い林になっていて、その林の中の坂道をゆっくりと歩きながら研究の想を練ることもしばしばで、北側の坂道では私の研究が大きく転換するような重要な着想を得たこともあります。素晴らしい同僚がひしめき合っている研究科なので、そうした方々との議論が共同研究に発展したことも何度かありました。また多くの優秀な学生にも恵まれ、彼らから私が知らなかった最新の情報を教えてもらったり、また彼らの興味に引き摺られて新しい分野を勉強するなど、数知れない良い刺激を受けました。研究者をしっかりとサポートしてくれる、極めて有能な方々が揃っている事務室や支援室の存在も、研究科をとて居心地の良いものにしてくれました。長期にわたって充実した研究生活を支えてくれた名古屋大学の方々に、心より感謝いたします。



森 郁恵 教授
ニューロサイエンス研究センター
理学専攻（生命理学領域）

前例を作り、道を創る

このたび、2023 年 3 月をもって、25 年間在籍した名古屋大学を定年退職いたします。独立助教授として、生命理学で半講座を主宰することになったのは、1998 年 4 月。2004 年 11 月から教授となり、1 講座を切り盛りすることになりました。2017 年 4 月からは、理学研究科に創設されたニューロサイエンス研究センターの専任教授・センター長として、センター運営に携わりました。振り返れば、たくさんの喜びや楽しい思い出が凝縮された 25 年間でした。

「前例を作り、道を創る」という言葉は、わたしが人生で大切にしていることを表すためにつくりました。人々は概して、新しい出来事に遭遇すると、それに類似した前例がないかと探します。前例が見つければ、それに従おうとします。これは、人間社会の大事なプロセスであり、批判するつもりはありません。しかしながら、科学の歴史は、まず、前例がない新発見をすることから始まります。最初はただの支流でしかありませんが、その発見が多くの研究者の関心の的になって研究者人口が増えれば、支流は主流となり、新しい研究分野が生まれます。それが道を創るということにほかなりません。支流は支流のままで終わってしまうかもしれませんが、まずは勇気を持って支流を作ることでは、主流ができることはありません。今後も、この言葉の通りに、生きてみたいと思っています。

定年退職教授との茶話会 - 研究科長室にて

2022 年度で定年退職される 3 人の教授の先生方と理学研究科長・副研究科長の 3 人で、2023 年 3 月 13 日にケーキを食べながら親しくお話する機会を持ちました。

従前、退職教授のみなさんとは 3 月の教授会のあとに歓送パーティをしてきましたが、新型コロナ感染防止のための代替となる会でした。

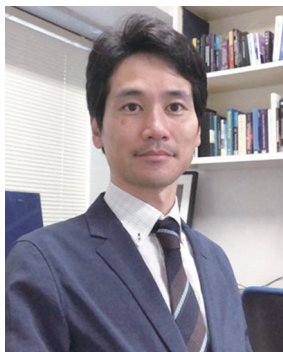
退職される先生方の来し方行く末を静かにうかがうことができ、これはこれで良かったなあとと思っています。

2024 年 3 月には歓送パーティを再起動するつもりですが、茶話会も継続しようかなあとと思っています。(寺崎一郎)



左手前から：中村光廣 教授、徳丸宗利 教授、嘉村 巧 教授、田中健太郎 教授、森 郁恵 教授、寺崎一郎 教授（理学研究科長）

7. 新任紹介



田村 陽一 教授
(Tamura, Yoichi)
理学専攻 (物理科学領域)

2022年12月1日付けで教授職を拝命いたしました。私は国立天文台や東京大学を経て、2017年に准教授として名古屋大学・物理学教室に参りました。専門は天文学、とくに電波と赤外線の境界となるサブミリ波と呼ばれる電磁波を観測し、ビッグバン後まもない宇宙に生まれる銀河の起源を探る研究を行っています。

銀河というのは、私たちの住む天の川銀河の外に無数に点在する、星とガスの大集団です。じつはこのことがわかったのが、今からちょうど100年前。このときはじめて、人類の知は天の川銀河を飛び出し、広大な宇宙へ歩み出したのでした。いまや人類はビッグバン後わずか数億年の時代に生まれつつある銀河の検出に成功しています。このような若い銀河はその材料であるガスを多分に含んでいるはずですが、サブミリ波はこうしたガスの検出やその詳細な分析に長けているというわけです。

私は、こうした銀河の研究に加え、天文学の発展を支える次世代サブミリ波望遠鏡の技術開発も行っています。名古屋大学は宇宙研究の一大拠点ですが、それは望遠鏡を「つくる」伝統を築き繋いできた諸先輩方の努力の賜物にはかなりません。そうした環境に身を置くことをありがたいと思うと同時に、伝統を受け継ぐことに背筋が伸びる思いです。今後も名古屋大学の発展に貢献すべく努めて参ります。よろしくお願いいたします。



内藤 久資 教授
(Naito, Hisashi)
多元数理科学専攻

2023年5月1日付けで多元数理科学研究科教授に昇任いたしました。大学院修士課程で名古屋大学に入学して以来、名古屋大学に在籍しています。大学院生の頃は「微分幾何学」を専門としていましたが、それに加えて10年ほど前から「離散幾何解析」の研究を始めて、物性物理・有機化学・材料科学などの分野と関わる研究をしています。離散幾何解析は、グラフに代表される離散的な対象を幾何学の視点から解析を行う研究分野で、「離散幾何解析」という言葉は、大学院生時代の指導教員であった砂田利一先生が名付けられたものです。例えば、物理・化学であられる結晶は、原子とそれらのつながり方をグラフとして見ることで離散幾何解析の言葉を使って調べることが可能となります。また、離散幾何解析では、数値計算も重要な研究ツールとなります。そこで最近、機械学習を使った数値計算手法にも興味をもって研究を行っています。

また、教育・研究以外にも、従来より研究科や全学のコンピュータネットワークの運用も行ってきました。昨今はネットワークセキュリティに関して厳しい目が向けられる時代になっていますので、理学部構成員の皆さんにより一層ネットワークセキュリティへの理解を深めていただくことも重要な仕事と考えています。今後も教育・研究のみならず、自分自身の得意な部分を活かして名古屋大学の発展に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



平井 広志 教授
(Hirai, Hiroshi)
多元数理科学専攻

2023年5月1日付けで多元数理科学研究科に教授として着任しました。私は、東京大学大学院情報理工学系研究科を修了後、京都大学数理解析研究所で助教を務め、学位を取得しました。その後、東京大学大学院情報理工学系研究科に戻り、講師・准教授を務めてきました。専門は、最適化とアルゴリズムです。最適化とは、関数の最小値を(計算機で)みつけるための理論と手法(アルゴリズム)を研究する学問です。特に、グラフやネットワークから定まる巨大な有限集合上の関数を相手にするのが離散最適化(組合せ最適化)で、理論計算機科学の $P \neq NP$ 予想とも深く関わっています。離散最適化問題の多くはNP困難で、効率的なアルゴリズム(=多項式時間アルゴリズム)は存在しないと予想されています。私は、多項式時間アルゴリズムを有する問題クラスとその背景にある構造に興味をもって研究をすすめてきました。そのような構造は、ユークリッド空間上の凸性とうまく関わっていることが多いのですが、より一般的な非正曲率空間上の凸性との関わりが見つかりはじめ、勉強しながらこれに取り組んでいます。これまでは、情報系の学生といっしょに研究してきたのですが、理学系の学生と研究できることを楽しみにしています。そして、教育・研究をとおして、名古屋大学の発展に尽力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



堀田 英之 教授
(Hotta, Hideyuki)
宇宙地球環境研究所

2023年4月1日に、教授として宇宙地球環境研究所に着任し、理学研究科理学専攻物理学領域も兼任させていただくこととなりました。私は2014年に東京大学で学位を取得し、その後海外学振を経験した後、千葉大学で特任助教、助教、准教授として働いてきました。

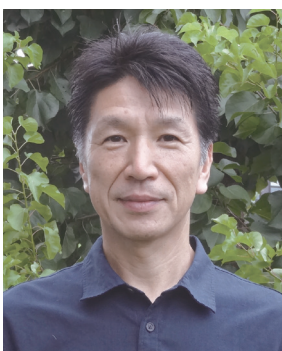
千葉大学では、いわゆる理学部物理学科の教員でしたので、兼任としてはありますが、理学研究科に携われることを嬉しく感じております。私は、ダイナモ、熱対流、黒点など、太陽内部から表面までの現象を数値シミュレーションによって理解する研究を行って来ました。私の研究は、コード開発と大規模シミュレーションが特徴で、これまで国のフラグシップスーパーコンピューターである京や富岳を使用して研究を実施してきました。最近、乱流・磁場と大きなスケールの流れに特に興味を持っております。無秩序に見える乱流・磁場から徐々に秩序だった大きなスケールができていく様子はとても面白く、実際の太陽ともよく比較できるので、理解を深めていきたいと考えています。

名古屋大学では、これまでの領域にとらわれず太陽外層、惑星間空間、惑星系にも興味の幅を広げるとともに観測との協調も進めていきたいです。少しでも理学研究科の教育・研究に貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



松本 有樹修 教授
(Matsumoto, Akinobu)
理学専攻 (生命理学領域)

2023年6月1日付けで理学研究科理学専攻生命理学領域に教授として着任しました。私は九州大学生体防御医学研究所で学位を取得し、2012年からハーバードメディカルスクールに留学し、現在の研究の基礎となるプロジェクトを始めました。2017年に再び九州大学生体防御医学研究所に戻って、留学先で行った研究をさらに展開させてきました。セントラルドグマは、DNAからmRNAが転写され、mRNAからタンパク質が翻訳されるという、分子生物学の基本概念です。一方で近年、ノンコーディングRNAというタンパク質を翻訳しないRNAが存在することが明らかになってきましたが、逆に私たちはノンコーディングRNAの少なくとも一部は翻訳されていることを発見しました。この矛盾は、どのようなRNAが翻訳され、どのようなRNAが翻訳されないのかという、その基本原則すら不明であるために生じています。さらに近年、様々な技術の進歩により、これまで検出されなかった新しい種類のRNAやタンパク質が次々と発見されてきています。私たちの研究室では、このような新しい種類のRNAやタンパク質を同定し、それらがどのようにして産生されるのかを理解し、さらにそれら新規分子の機能や生理的役割を明らかにしていきたいと考えています。名古屋大学では更なる飛躍を目指して頑張っていきたいと思っております。



三村 耕一 教授
(Mimura, Koichi)
環境学研究科・地球環境科学専攻

2023年4月1日付けで教授に昇進いたしました。私は、『自然界に存在する非生物起源の有機物』に興味があり、「隕石の有機物が持つ地球科学情報の抽出」と「高圧環境における有機物の挙動解析」が主な研究テーマです。隕石には多様な有機物が存在し、それらは隕石が経験してきた環境の情報を保持しています。私たちは隕石の有機物を調べ、初期太陽系に関する情報の獲得に取り組んでいます。さらに、隕石にはアミノ酸、糖、核酸塩基など、生命に必要な有機物が存在し、これらが地球生命の原料になった可能性も提案されています。隕石が供給する有機物の組成は、隕石衝突で生じる温度と圧力に応じて変化し、その温度と圧力の程度は衝突速度によって決まります。私たちは様々な速度の衝突実験を行い、地球に供給された有機物組成の予測を試みています。また、隕石の有機物は地球以外の天体にも供給されていて、ここでは地球と同様に生命が誕生しているかもしれません。外惑星の氷衛星には、地下に液体の水のできた海（内部海）を持つものがあり、地球外生命の存在が期待されています。内部海のは海底は高圧で、単純な有機物が生命へと進化する重合反応に適した環境です。私たちはこの環境を模擬した実験を行い、高圧環境での有機物の反応を調べています。

今後、常識にとらわれない斬新なアプローチで研究を進め、影響力のある成果を名古屋大学から世界に発信できるよう努力します。どうぞよろしくお願いたします。

8. 寄付をしていただいた方々（2022年11月-2023年10月）

同窓生の皆さまへ

このたびは、理学同窓会へ、たくさんのご寄付をお送りいただき誠にありがとうございます。
温かいご支援を賜りました皆さま方に心より感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄付金は、
理学同窓会の運営及び活動費として、大切に活用させていただきたいと存じます。
どうか今後とも、名古屋大学理学同窓会にご支援賜りますようお願い申し上げます。

※ Web版ではご寄付いただいた方々のお名前を非掲載とさせていただきます。
なにとぞ、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

理学部オープンキャンパス 2023

「名古屋大学オープンキャンパス 2023」が、8月7日(月)、8日(火)の2日間にわたり開催されました。大学への進学を希望する高校生を対象に毎年開催しており、今年も大勢の来場者がありました。8日(火)が実施日であった理学部では、豊田講堂での「理学部紹介」のあと、各会場で企画された「学科紹介」「ポスター展示」「ラボツアー」「研究室見学」、また「ノーベル賞展示室」、「博物館」など

の見学、当日は理学部全体が大変な賑わいとなり、用意していた資料が無くなり、慌てて追加する会場がいくつもありました。猛暑の中、みなさん、思い思いの企画に訪れ、真剣なまなざしで熱心に説明を聞かれました。

理学部のWEBページでは、「オープンキャンパスシリーズ 2023」の動画をアーカイブで配信しました。今年も大学全体が一体となり、活気にあふれた一日となりました。



学科紹介（数理学科）



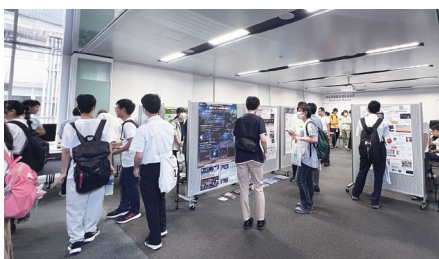
生物標本展示・研究内容ポスター展示（生命理学）



学科紹介（化学科）



プリンキピア特別講演会



研究内容ポスター展示（物理学科）



研究室見学（地球惑星科学科）

9. 事務局からの連絡とお願い

1) 寄付のお願い

日頃、理学同窓会の運営にご協力いただき心より感謝申し上げます。理学同窓会は皆様からの温かいご支援で、運営が成り立っております。理学同窓会を支えて下さる方々を理学支援会員として同窓会報にお名前を掲載させていただきたいと考えています。ご協力いただける場合は、**同封の振込用紙**で、一口(1,000円)の支援をお送り頂けると幸いです。

【郵便局】口座番号：00800-5-77637、加入者名：名古屋大学理学部理学系研究科同窓会事務局

【銀行振込】三菱UFJ銀行 八事支店、口座名：名古屋大学理学同窓会、口座番号：普通 0003160 *インターネット振込も

*お振込が完了しましたら電子メールで、お名前、卒業年等を理学同窓会事務局までお知らせください。ご利用いただけます。

【銀行振替】年に一回、毎年10月の自動引き落としもご利用いただけます。

*詳しくは、理学同窓会のホームページでご案内しておりますのでご覧ください。

2) 投稿のお願い

同窓会報は年1回の発行で、クラス会など皆様からの投稿をお待ちしております。Emailまたは、理学同窓会事務局までお送りください。

名古屋大学理学部・理学系研究科同窓会事務局

〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部内

E-mail: faq@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp

理学部・理学系研究科同窓会ホームページ▶
<https://www.dousou.sci.nagoya-u.ac.jp/>

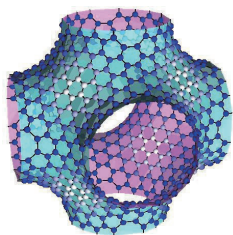


10. scope...

離散幾何解析の目で見える物質科学

数学では点とそれらをつなぐ辺からなる構造をグラフと呼びます。結晶や分子の構造は、原子を点、原子の間の結合を辺と単純化することで、これらの構造をグラフであらわすことができます。しかし、グラフをどのように描くかには任意性があり、結晶などの「綺麗な」構造をグラフとして考える時には、グラフの頂点を空間に配置するかを考える必要があります。一方で、物理で知られる重要な対象の多くは、最小作用の原理(数学では変分原理と呼ばれています)とよばれる、何らかのエネルギーが最小化されたものとして得ることができます。結晶をあらわすグラフに対してもエネルギーを決めることができ、それを最小化するグラフ頂点は「綺麗な」配置となり、グラフ理論と変分原理を使って結晶の構造を再現することができます。

炭素原子のみからなる構造としては、旧くからダイヤモンドが知られていますが、1990年代頃からグラフェン・フラーレン・カーボンナノチューブなどが発見され、現在に至るまで多くの研究がなされています。これらの新しい炭素構造は、炭素原子が他の3つの炭素原子と結合しているという顕著な特徴を持ちます。数学の目でこれらの構造を見ると、グラフの頂点が他の3つの頂点と辺で結ばれていると理解することができ、我々は、これらを3分岐離散曲面と考えることで、「曲率」という幾何学的な量を導入しました。これによって、離散曲面の曲率と物質の性質の間を探ることが可能となりました。(内藤久資)



離散幾何解析を用いて作った負のガウス曲率をもつ3分岐離散曲面。シュワルツの極小曲面の離散版と考えられ、各頂点とその隣接3頂点は平面上に存在するという「バランス条件」をみたしている。この離散曲面を炭素で作ることができるかの研究が行われている。

- [1] M.Tagami, Y.Liang, H.Naito, Y.Kawazoe, M.Kotani, Carbon 76, 266-274, 2014
- [2] M.Kotani, H.Naito, T.Omori, Computer Aided Geometric Design 58, 24-54, 2017
- [3] A.Dechant et. al, Carbon 182, 223-232, 2021

住所変更をお知らせください
(切手不要です)

✂ キリトリ線



料金受取人払郵便
差出有効期間
令和7年12月
7日まで

4 6 4 - 8 7 9 0

✂ キリトリ線

名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部内

名古屋大学理学部・理学系研究科
同窓会事務局 宛



✂ キリトリ線

11. 楽しく、厳しく、ハードに勉強する学生諸君



令和5年3月27日 学位授与式（物理学科）



卒業お祝い会&謝恩会（化学科）



学位授与式（物理学科）



学位授与式（物質物理学専攻 物理系）

✂キリトリ線

連絡先変更カード

連絡先内容に変更がある場合、必要事項をご記入の上お送りください。
お送りいただいたデータは、同窓会関係の連絡のみに使用し、許可なく
他の目的に流用することはありません。

変更事項に○をつけてください。

年 月 日

卒業年 (西暦)	年 年 年	学科 専攻 専攻
旧職員		
(フリガナ) 氏名	(フリガナ) 旧姓	
新しい 連絡先	□□□□-□□□□	
	TEL	
	E-mail	
通信欄		

✂キリトリ線



学位授与式（素粒子宇宙物理学専攻）



学位授与式（数理学科）



ヨルダンで、2年ぶりに考古発掘調査を行う学生



学位授与式（生命理学科）



学位授与式（生命理学専攻）



3年生の学生実験の様子（化学科）



カフェ・ダビッド風景（数理学科）

12. 会計報告

1) 2022 年度決算報告

○収入の部	
寄付収入	502,000
支援会員	237,553
「理フィロソフィア」	
バインダ頒布会	202,670
銀行利息	24

計 942,247 円
前年度よりの繰越金 4,138,261 円

○支出の部

会報印刷費 (35 号)	308,000
会報郵送費	163,420
雑費	131,560
イベント開催費	18,700
人件費	120,000
同窓会サーバ利用料 (年額)	60,000
Zoom 費用 (1 年分)	22,110
通信費	19,462
ウェブページ整備費	43,319

計 886,571 円
次年度繰越金 4,193,937 円

2) 2023 年度予算

○収入の部	
寄付収入	1,000,000
支援会員	250,000

計 1,250,000 円
前年度よりの繰越金 4,193,937 円

○支出の部

会報印刷費 (36 号)	320,000
会報郵送費	280,000
雑費	200,000
イベント開催費	200,000
人件費	120,000
同窓会サーバ利用料 (年額)	60,000
通信費	50,000
ウェブページ整備費	50,000
Zoom 費用 (1 年分)	22,110

計 1,302,110 円
次年度繰越金 4,141,827 円

13. 編集後記

今号では、クラス会の記事を多く寄稿していただきましたので、これまでよりページ数を増やしています。久しぶりに旧友に会われ、楽しい時間を過ごされた様子をお楽しみください。クラス会を開催された場合は、その様子を記事にしてお知らせいただけないでしょうか。また、皆さんからのメッセージ等への寄稿記事も大歓迎です。(MH)

編集委員を拝命したのが 2019 年、コロナ禍が始まった年でした。それから 4 年、コロナ騒動の終焉とともに、今号にて委員を卒業となります。いろいろと大変な期間でしたが、皆様のお陰で楽しく仕事をすることができました。原稿執筆を快く引き受けてくださった方々や、ご助力を頂いた編集委員と事務の皆様へ厚く御礼を申し上げます。(KT)



名古屋大学理学部・理学系研究科同窓会

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学部内

TEL 052-789-5564



<https://www.dousou.sci.nagoya-u.ac.jp/>

2023年3月29日撮影